

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2270100461 | | |
| 法人名 | 有限会社 ケアシェルパ | | |
| 事業所名 | グループホーム あたがわ (A棟、B棟) | | |
| 所在地 | 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年1月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年3月12日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kami=true&jiyosyoCd=2270100461-008&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------|
| 評価機関名 | 有限会社システムデザイン研究所 |
| 所在地 | 静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階 |
| 訪問調査日 | 平成25年2月16日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で、穏やかに、のんびりと生活していただいています。畑作業を自由にさせていただいたり、外出への支援を積極的に行ない、生活リハビリと心のケアを中心とした支援を日々行なっております。地域の行事にも積極的に参加をし、近隣の住民とも気さくな挨拶を交わせる自然な交流を築いています。他地区のグループホームとの繋がりを積極的に行ない、お互いの行事に参加したり招待したりと交流を深めている。認知症サポートキャラバンの活動等により、町の各担当者との繋がりを築き、住民の方の相談窓口の役目も担った役割も果たしています。中学校に於いては、ホームのイベントに参加していただき、学校での運動会や音楽発表会等の行事に利用者様を招待していただく関係を築けています。訪問看護との提携により利用者様の健康管理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊豆の海と山に囲まれた自然豊かな住宅地に立地しています。今年度は外出イベントも増えており、行事担当者が行事の計画・立案・検証をおこない、町外のレクリエーション施設まで行ったりしています。またユニット合同でBBQや事業所のお祭りを開催しています。地域への貢献として「キャラバンメイト」養成講座の講師依頼を積極的に受け、地域の商店や高校生らが受講者となって広く認知症の理解や、認知症予防の啓発に役立っています。職員全員から意見を取り入れ、自発的に取り組むことも事業所の特色です。今年度は医師のアドバイスのもと「便秘の改善」に取り組んでいて、「調味料にオリゴ糖を使う」「ヨーグルトを毎日食べる」など服薬に頼らない自然な排便をめざしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 過去に体験した「想い」をその暮らしの中で展開できるように家庭に近い環境を最大限に作り出すように努め、その人らしく暮らし続けるために、残存能力を引き出し、自立した生活ができるよう職員一同心掛けている。 | 理念を玄関や事務所に掲示し、職員、家族にも周知しています。「私達のおこなっていることは常に理念に基づいての実践である」として、日々の実務の中で自然に反映されています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 近隣中学校との交流を続け、体験学習の受け入れやホームの行事にも頻繁に参加していただいている。学校の運動会や音楽発表会に招待され参加している。散歩や回覧板を届ける事で、近所の方と気軽に交流している。 | 近隣の中学校との交流は毎年の行事として定着しています。長年の交流により、中学校の音楽発表ではストープの設置された「優待席」が確保されています。また、事業所の「秋祭り」ではよさこいの踊りが披露され、利用者が一緒に拍子木を叩いて楽しむこともあります。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | キャラバンメイトの活動にて、町担当者と協力し講演を行ない地域の方々に認知症についての理解や支援方法等を伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎回、現状報告としてサービス内容も報告しており、評価決定後には運営推進会議(家族会)を通して報告を行なっている。問題点や改善内容も意見をいただき検討している。合わせて報告を行なっている。 | 運営推進会議を「家族および地域とのふれあい会」という呼称することで馴染みやすくなっています。事業所からの働きかけにより、今年度は家族からの参加も増えています。近年は民生委員の参加が滞っていましたが、今年度からは「地域資源」としてかかわるようになっていきます。 | 自治会やボランティアなど、近隣住民の意見が運営に反映されることを期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 役場の健康づくり課や包括支援センター職員と頻繁に連絡を取り合い、運営推進会議には毎回出席いただいている。また生活保護者の受け入れも行なっているため、必要に応じ賀茂健康福祉センター職員とも連絡をとり情報を伝えている。 | 行政職員が参加しやすいように、運営推進会議は平日に開催しています。東伊豆町で開催している「キャラバンメイト」の講師を務めるなど、地域包括支援センターや行政職員とは良好な関係ができています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関は夜間以外は施錠せず、敷地内であれば自由に生活出来るよう支援している。「身体拘束排除マニュアル」や「身体拘束ゼロの手引き」を全職員が閲覧し、身体拘束をしないケアの徹底を図っている。 | 身体拘束排除のためのマニュアル等が更新され、その都度全職員が理解できるように閲覧を義務付けています。高齢独居世帯が多いという地域特性もあるため、行政の協力のもと身体拘束の廃止に取り組んでいます。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員は、高齢者虐待防止マニュアルを閲覧し法令や防止するための理解を図っている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 生年後見制度は、実際に利用者様が制度を利用する為に携わってきたため多少の理解を得ている。だが、学ぶ機会が無く関連した他の制度等詳しく理解出来ない現状である。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約内容は事前に説明を行っており、不安な事や疑問点は、理解され納得して頂けるよう十分に話し合っている。また、加算等が発生する際には、ご家族様へ説明し理解していただいた上で行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議・イベント・面会時等、普段よりご家族様から気楽にご意見、要望を伺っている。運営推進会議には、利用者様も参加し考えを述べていただいている。 | 家族会への参加を増やすために事業所として取り組み、今年度は4組の家族が参加しています。家族には月ごとに事業所での様子をおたよりで届けています。家族会では、「家族アンケートについて」など運営改善のために意見が挙げられています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎週行なうミーティングにより、職員の意見や提案を聞き入れ迅速な判断をし、利用者様への対応に活かしている。各ユニットに主任を配置し、職員の意見を伺った上で代表者とカンファレンスを行なっている。 | 原則として年2回、個別面談をおこない職員から意見や希望を聞いています。介護現場でのルールづくりなど、職員からの意見で改善に向けた例もあります。新人職員の育成ならびに定着が今後の課題です。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 介護職員処遇改善加算の申請により処遇の改善に努め、キャリアパスにより向上心をもっていただけるような職場環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は、必要な研修費や職員の配置整備等の指示を責任者に出し、研修を行なっている環境整備に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 町内にある事業所の合同研修会を実施しており、他の事業所の方との班編成により意見交換を行ない、交流する事によりサービスの質を向上させている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に面会を行ない要望を伺い取り入れるよう努めている。 担当職員を決め、本人の困っている事や不安な事を聴きとり安心感を高め、よりよい関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に面会を行ない本人の日頃の生活状況を伺い、ご家族様が困っている事を確認し、ホームでどのように過ごしていただきたいか要望聴き入れ、その事を職員間でフェイスシートを用い共有している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談で得た経緯を把握し支援方法を相談する。 かかりつけ医については、今までの主治医かホームの提携医師に切りかえるか説明したうえで判断していただいている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様一人ひとりの能力を把握し、それぞれ掃除・洗濯・食事の準備、片付け等協力して行なってもらう事で、よりよい関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 担当者によるお手紙にて近況報告を行ない、イベントの際には一緒に参加していただけるよう呼び掛けている。 ご家族様との外出や外泊は自由にいただいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 図書館の利用や、ふれあいいきいきサロンへの参加により、馴染みの方との交流が途切れないようにしている。 希望があれば事務所で電話の利用もでき、手紙や年賀状でのやりとりも出来るよう支援している。 | ピアノや書道などの趣味が継続できるように、備品の確保など事業所として協力しています。また趣味のつながりによる交友関係も継続できるように支援しています。近所の家族が自然に立ち寄れる、訪問や面会が気軽にできるような雰囲気があります。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う方同士が話しやすいようにテーブル席を配慮したり、塗り絵が得意な方が他の利用者様に一緒に塗り絵を勧めたりし、自然に利用者様同士の関わり合いが出来ている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご家族様に意向を確認し、許可を得られれば面会に行かせていただいている。 いつでも相談や支援に応じられるよう、記録類は保管している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で本人の希望を聴き出すように努め、職員とケアマネージャーでの話し合いやミーティングで、本人にとってよりよい介護ができるように検討している。 | 特に入浴介助の時など、リラックスした自然な状態での会話から利用者の本心や意向を聴くように心がけています。また、当日着る衣類をクローゼットから選択してもらうなど、自由な決定を促しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にこれまでの生活歴をご家族様より聴いて把握し、本人の意向に添うように支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人ケース記録・業務日誌に特変事項を細かく記録し、申し送り行ない現状を把握している。 体調不良の方はバイタルの測定を行なっている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ミーティングにて職員とケアマネージャーで意見交換を行なっている。 ご家族様の面会時に現状を報告し、要望をお伺いしてより良い介護計画を作成している。介護計画の変更の際には署名をいただいている。 | 入所1ヶ月間は在宅時と連携した暫定のプランを作成し、入所後に職員から実際の状況を聞き取り利用者の生活状態に応じた計画を作成しています。ケアマネージャーは職員からの聞き取り、アセスメントやモニタリングの結果を経過記録に記載して職員が閲覧できるようにしています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 業務日誌・夜間業務日誌にて全体の様子が分かるように記入し、職員は出社し最初に目を通している。個人ケース記録に細かく行動や言動を記載し、その方に合った対応をミーティングで話し合っている。話し合いの記録もノートに記入している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 訪問診療・訪問看護・歯科往診・訪問マッサージ等医療面での支援や、図書館・買物等の外出支援を本人やご家族様のニーズに合わせて対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ふれあいいきいきサロンへの参加や、本を読みたい方は図書館を利用している。月に1度ボランティアの方が来館され催しを楽しんだり、中学校の音楽発表会等の行事に招待され交流を深めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医の断続かホームの提携のクリニックへの変更を決めていただいている。往診でのドクターの指示により専門医療機関への受診に対応している。 | 18名中17名の利用者が協力医を主治医としています。協力医や従来からのかかりつけ医の往診がおこなわれ、訪問看護が月2回あるので通院することはありません。専門科などへの通院の際には、主に職員が付き添っています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月に2回、看護師の訪問でバイタルチェックや身体の様子を診ていただいている。急な発熱等、体調不良の方が出た場合何時でも連絡が取れ、必要に応じて訪問や助言をしていただいている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 訪問看護師へ情報を伝え病院関係者と連携を図っている。入院の際には情報提供書を提出し、状態を報告している。緊急時に備え、緊急用フェイスシートを作成している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時にホームの方針を説明している。利用者様の状態の変化に応じて、家族・ドクター・訪問看護師・ホーム責任者と話し合い、方針を確認し共有している。 | 「経口摂取ができない」「医療処置が必要」など状態によっては事業所として介護できる限界もあるため、家族の協力や主治医意見に応じて検討しています。特に家族の協力は不可避と考えています。事業所では開所以来、2回の看取り実績があります。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な訓練は行えていないが研修には参加し、実践力を身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昼夜の設定や地震等設定を変え、消防署の立ち会いのもと消防訓練を年2回行なっている。災害発生に備え災害用伝言ダイヤル体験を利用したり、防災用品や3日分の水や食料を備蓄している。 | 夜間想定を含めて年2回、避難訓練を実施しています。今年度はさらに2回「災害伝言ダイヤル」を活用するための伝達訓練をおこない、職員全員が録音を体験しました。訓練の教訓を活かしてマニュアル作成をおこない、運営推進会議でも報告しています。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|---------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格に合わせ言葉掛けを行っている。時には馴染みのある地域の方言を交えて会話する事もある。記録には利用者様の実名を記載しないようにしている。 | 今年度は1ヶ月間にわたり、毎週ミーティングの後に「接遇」についての反省会、発表会をおこないました。写真や広報でプライバシーが晒されることがないように、事前に家族に合意を得ています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の行動時には声掛けを行ない本人の意思を確認し、自己決定を促している。意思表示が難しい方は、日頃の行動を読み取り、ご家族様と相談し意思を汲み取っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴日や食事・掃除の時間は決まっているが、それ以外は自由に生活していただき、ビデオ観賞やカラオケ等の要望があれば、希望に沿って支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせた衣服に衣替えをしている。定期的に理容師に来ていただき、散髪を行っている。それ以外でも希望があれば職員が散髪を行っている。男性利用者様には髭剃りを、女性利用者様にはイベント時の化粧を支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節や行事に合わせてメニューを考えている。下ごしらえ等出来る範囲で利用者様と一緒に準備を行ない、食器洗いやお盆拭きも手伝っていただいている。メニューのリクエストがあった場合は、材料を確認し応えるようにしている。 | 職員が当日の食材を見て、臨機応変にメニューを考案しています。Aユニットではできるだけ自分で片付け、Bユニットはまとめて下膳しています。行事食も月1回程度おこない、最近では「恵方巻き」を利用者全員が味わいました。 | 食事の様子や内容が利用者家族にも周知されること期待いたします。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 歯の無い方には細かく食材を切り、むせやすい方には水分にトロミをつけている。水分摂取量は、その都度業務日誌に記載し、1日の水分摂取量を記録している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自ら行える方は、毎食後歯磨きを行なっている。口腔状態や本人に合わせマウスウォッシュや嗽等、食事後口腔ケアを行なっている。就寝前には洗浄剤を使用し義歯洗浄を行なっている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日誌に排泄のあった時間に記号を用いて記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしている。 自分でトイレに行かれない利用者様は、時間で誘導している。夜間は、自らポータブルトイレで排泄される利用者様もいる。 | 利用者ごとに排泄の状態を観察し「業務日誌」に記載しており、排泄がなかった場合も、誘導がおこなわれたことを記録しています。そのため、排泄パターンにもとづいて排泄の誘導がおこなえています。パットや紙おむつを安易に使わないよう指導し、家族に対しても説明しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排便チェックを行ない、便秘気味の方は牛乳やヨーグルトを召し上がっていただく。力めない方には腹部マッサージを行ない排便を促すようにしている。 医師や訪問看護師に相談し、対処を決めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は決まっているが、希望の時間を伺うようにしている。 気の合う方同士と一緒に入浴されたり、入浴剤を使用したり本人の好きなお湯の温度に調整する事で、気持ちの良い入浴を促している。 | 毎日浴槽に湯を張り、ほぼ1日おきの入浴が叶っています。希望があれば入浴の順番を選択したり、2人一緒に入浴することもできます。入浴剤を使用し、シャンプー、リンスも個人の好みに応じて選んでもらっています。ローションなど入浴後のスキンケアも、趣向に合わせて選択できるようになっています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間は決めずに居室にて読書をされたりテレビを観たり、その方に合った時間で入眠されている。居室にはエアコンや加湿器での調節を行ない、安眠出来るよう支援している。週に1度リネン交換を行ない寝具の清潔を保っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 担当職員により薬の管理を行なっている。 服薬表ファイルにより、担当職員でなくても確認出来る。 薬の変更時には業務日誌・往診ノートにより申し送り、周知している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎月イベントを企画し、楽しんでいただけるよう支援している。 掃除や食事の準備・片付け等自然に役割が出来ている。 塗り絵・音楽観賞・ビデオ観賞等、一人ひとり自由に過ごしていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 普段より散歩には出掛けており、買物や図書館にも同行していただいている。 地域のイベントには、積極的に参加し交流を行なっている。 イベント時には、普段行けない場所を企画し出掛けるようにしている。 | 冬季でも、毎日散歩に出かけています。月担当がいて、その月の行事を企画・運営が責任もって遂行できるようになっています。昨年より外出の機会を増やして、町外までドライブに出かけていて、河津桜を見たり、回転寿司などの外出がおこなわれています。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 私物を購入する際には買物に同行していただいている。本人が行かれない時は希望を伺い職員が購入し後で精算を行なっている。少額をご自身で管理されている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば事務所の電話を利用していただいたり、手紙のやり取りが出来るよう便箋・切手、年賀状・暑中見舞いの葉書を用意し支援を行なっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節や行事に合わせた飾り付けを行ない、イベント時の写真や利用者様が塗った塗り絵を掲示し、温かみのある雰囲気作りを行なっている。 トイレが分かるよう張り紙をし、使用中だと分かる札も設置している。している。 | 光の入りにくい場所には灯りの配置など、設備面での工夫や配慮が視えます。本年は居間の窓にレースカーテンを設置しています。駐車場の一角に小さな畑もあり、テーブルの生花などに使われています。壁には行事ごとの写真がたくさん飾られていて、数ヶ月ごとに張り替えられ季節感が感じられます。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者様が思い思いの場所で過ごせるようソファや椅子を設置している。玄関や外のスペースにも座って過ごせるよう各所に椅子を用意している。自分で移動出来ない方は希望を伺い、手引きや車椅子にて誘導を支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使い慣れた家具や布団を用意していただいている。 居室にてテレビ観賞や音楽観賞、ピアノ演奏等居心地良く過ごしていただける工夫をしている。 | 部屋ごとに特色ある表札が掲示されています。居室によっては、鏡台やクローゼットなどの家具が持ち込まれ、壁には家族の写真などが所狭しと飾られています。電子ピアノを楽しむ利用者もいます。居室前の廊下には照明を追加し、夜間でも過ごしやすくしています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリーで廊下・浴室には手摺りが設置され、トイレ内には昇降支援の為の手摺りを設置している。 各居室に表札を掲げ識別を行なっている。 夜間用に、ポータブルトイレを設置している方もいる。 | | |